

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690800012		
法人名	株式会社メデカジャパン(営利法人)		
事業所名	東山ケアセンターそよ風(桜)		
所在地	京都市東山区本町18丁目386-1		
自己評価作成日	平成22年10月17日	評価結果市町村受理日	平成23年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohvo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2690800012&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>お一人お一人の持っておられる力を、生かして生活して頂けるように支援致しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当該ホームは1階にデイサービスが併設され、合同で行う行事や看護師による対応等協力体制が密にあります。2階にあるホームは京都らしい町屋風の格子戸や障子があり、落ち着いた雰囲気との共用空間となっており、窓から季節の景色を眺めることができます。2つのユニットを自由に行き来する中で個々のペースで生活できるよう支援しています。家族の来訪も頻繁で運営推進会議や家族交流会に多くの家族が参加をされるなど様々な意見や要望等が出され、サービスの質の向上に反映されています。利用者の希望にそった外出や馴染みの関係の継続支援等、利用者本位の個別ケアを大切にされているホームです。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に参加者全員で理念を唱和し、共有・確認し、理念に基づいた支援を行っている。また利用者様を地域から孤立させる事無く「共生」を目標に、地域社会の一員として生活して頂いている。	法人の理念をもとに、職員間の思いを込めてホーム独自の理念を作り、すぐ目につくところ掲示し、日常のケアの場面で実践しています。慣れ親しんだ地域で散歩や買い物に出かけたり、行事に参加するなど、地域密着型ホームとしてふれあいを大切に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加や、利用者様と一緒に回覧板を届けたり、地域の古紙回収に協力。近隣のお店に買い物に行き、地域の方々と交流を持っている。またセンターでの催し物に、地域の方々にも参加して頂いている。	町内会に加入し、古紙回収の協力や地域行事の運動会、敬老会、地藏盆に積極的に地域の一員として参加交流を図っています。併設のデイサービスと合同での秋祭り等の催しには地域住民が来訪しています。日々の散歩や買い物の際に挨拶するなど馴染みの関係作りに努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への積極的参加、そよ風行事への招待等交流を深めている。また、近所への散歩時、地域の方々からお声をかけて頂いたり、挨拶のやり取りを通じて生かされている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた、ご意見を職員一同把握し、サービスの質の向上に努めている。	運営推進会議は利用者、家族、地域代表、地域包括支援センター職員、センター長、管理者、職員をメンバーとして2ヶ月1回開催しています。ホームの現状報告や行事、事故報告をし、参加者からは意見や要望を得る他、ボランティアを紹介してもらう等有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告書を利用者様と一緒に区役所まで提出しに行っている。	利用者と一緒に運営推進会議の議事録を区役所まで挨拶を兼ねて持って行き、情報を得る機会に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会が設置されている。また、身体拘束廃止についての勉強会にも参加し、理解を深めている。	職員は身体拘束防止委員会を設置し、勉強会や会議等で身体拘束廃止についての理解を深め、常に声かけ見守りを徹底しています。安全、防犯上、玄関がオートロックであることを入居時に家族に説明し、理解を得ています。出られたいようであれば、職員が利用者につきそう支援をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時等、さりげなく身体の確認を行い注意を払っている。	/	/

東山ケアセンターそよ風（桜）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現入居者の方については、必要とされている方がおられず、特に話し合いの場は持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、原則2名体制で対応し、十分な時間を取り、質問等に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置。また運営推進会議・家族交流会・ご面会時等に、御意見や御要望等をお聞きする機会を持っている。	運営推進会議や家族交流会には多くの家族が参加され、意見や要望等を話し合い、改善策に取り組んでいます。家族の来訪時や日常生活から、利用者、家族とのコミュニケーションに努め、意見が言いやすい雰囲気づくりに心がけています。得られた意見や要望等は職員間で話し合い、家族に報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・GH会議・ユニット会議時、またセンター長や管理者と直接話が出来るような雰囲気作りを心掛け、日頃からコミュニケーションを取るように努めている。また定期的な面談も持っている。	センター長、管理者は日々のコミュニケーションから、職員の意見や気づきを聞く機会を設けています。職員会議でも意見や提案を聞いてサービスの向上に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を行い、評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員に対して、トレーナー制度を取り入れている。また研修や勉強会等を行い、サービスの質の向上に繋がるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に参加。また、外部研修を通じて、同業者との交流を図る機会を持ち、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の個別面接にて、可能な限りご本人の意向をお伺いしている。また、ご入居後もお話を伺う機会をよく持ち、信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前の個別面接で、ご家族様が困っておられる事・不安な事等お聞きし対応している。ご入居後もご面会時に利用者様の日常生活の様子をご報告し、ご要望等お伺いし信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを利用される際は、出来る限りご協力出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や洗濯物等、家事を積極的にして下さっている。また、会話の中から、色々教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子等をご報告し、ご家族様とコミュニケーションを取るように努めている。またご家族様と過ごされる時間も大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類の方やご友人の方もご面会にこられたり、ご自宅にも帰っておられる。電話の取り次ぎも行い、馴染みの方との関係も持って頂いている。また訪問して頂きやすい雰囲気作りも心掛けている。	以前の関係が継続できるように友人や親戚の来訪や自宅への外泊支援を行っています。馴染みの場所に散歩やドライブに出かける機会もあり、家族の協力を得て、孫の結婚式や同窓会、趣味の継続支援や職員が同行して選挙に行く支援もしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の人間関係を把握し、孤立される方の無いように配慮している。日常生活の中で自然に関わり、支え合っている。リビングでの団欒を心掛け、一つの家族のように生活をされている。		

東山ケアセンターそよ風（桜）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからの、ご相談等はほとんどないが、今後、そのような事例があれば、配慮していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中からお意見・ご希望を把握するように努め、支援している。	利用者との日常の会話の中で、好きなことや希望を把握しています。意思疎通の困難な場合には家族からの情報収集や質問の仕方を選択してもらうなど、日常生活から表情や行動、雰囲気等で把握に努めています。	センター方式を使用し、一人ひとりの思いや希望の把握にも努めていますが、情報の更新等さらなる活用が期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時の資料や、ご本人・ご家族様との会話により情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中や記録・申し送り等から、心身状態等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントやカンファレンスを行い、ご本人様にとってよりよい介護計画が作成出来るよう心掛けている。またご家族様にもご面会時等にご要望をお聞きしている。	日々の気づきや出来る事出来ない事を把握し、利用者、家族、医師の意見も反映させた介護計画が作成されています。3ヶ月に1回カンファレンスにて職員間で話し合い、毎月モニタリングを実施し、見直しがされています。状態に変化が見られる場合はその都度、見直されています。	介護記録は利用者の言葉や行動が詳しく記載されています。今後計画にそった記録の工夫が期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過記録や日報・申し送りノートを利用し、情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1階にあるデイサービスが休みの時は、デイフロアのカラオケを利用し楽しんで頂いている。また出来る限り、柔軟に支援し、ニーズに対応していけるよう努めている。		

東山ケアセンターそよ風（桜）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区民運動会や地藏盆・敬老会等への参加・祭りの見学等、地域との交流を楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に、内科・歯科の往診を受けている。また体調不良時には、ご家族様ご了承のもと受診している。	入居時にかかりつけ医の希望を聞いています。提携医は月2回往診があり、歯科医は必要に応じて週1回来訪しています。利用者の希望に応じてマッサージの支援もしています。また日中は併設のデイサービスの看護師による対応で安心に繋げています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中はDSの看護師が勤務しているので、変化あれば報告・連絡・相談し様子を見て頂き、指示を仰いでいる。また、提携病院にも電話等で相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はカルテ持参し、ご利用者様の情報を提供している。また往診時等に、相談や助言を頂き、連携を持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様との話し合いのもと、個別に対応し方針を共有し、支援するよう努めている。	常時医療行為が必要になると退居になる事を契約時に説明していますが、状況に応じて家族、医師、職員と話し合いながら出来るだけ意向にそうよう体制を整え支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時等のマニュアルがリビングに設置されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防避難訓練実施している。	消防署の協力の下、年1回はセンター全体で、1回はホーム独自で夜間を想定した訓練を実施しています。また、次回は地域に声を掛けて消防訓練を行う予定をしています。ホームからも地域の集まりに参加した際には協力を得る働き掛けをしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様お一人お一人、尊敬の念を持って会話をしよう心がけているが、不適切な言葉掛けを行っている時がある。皆で注意しあえるよう努めている。	尊敬の念を持って利用者一人ひとりと会話しよう心がけています。不適切な対応や言葉かけがあれば、その都度注意するようにし、ミーティングで話し合い、職員間でも注意し合える環境づくりを大切にしています。接遇、プライバシーの研修も受講しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から、ご希望をくみ取れるように気をつけている。また、自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の思いを大切に、日々過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により、訪問理美容を利用されたり、ご自分で化粧されたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・味見・盛り付け・後片付けをお手伝いして下さっている。またスタッフは利用者様と一緒に食事している。	利用者と包丁を使って野菜の下ごしらえや盛り付け、配膳、片付けなど一緒にしており、味付けや味見も楽しみからしています。職員も同じ食卓で会話を楽しみながら同じものを食べています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事摂取量は、チェック表に記入し把握している。水分摂取量少ない方は、水分摂取促している。糖尿病方は、Dr.指示のもと食事量多くならないよう配慮している。体調に応じて食事内容も配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き声掛け促し、口腔内の清潔を保持して頂けるよう努めている。また夜間は義歯をお預かりし、義歯洗浄剤を用いて洗浄している。介助が必要な方は、介助にて口腔ケアを支援している。		

東山ケアセンターそよ風（桜）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導が必要な方は、排泄チェック表を確認し、定期的にトイレ誘導を行い支援している。また、「トイレ」「お便所」等の声を聞き逃さず、トイレでの排泄を支援出来るよう努めている。	利用者の様子を観察したり、チェック表に記録し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しながらなるべくトイレでの排泄を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜を多く使用しよう努めている。牛乳やヨーグルト等の乳製品も摂取して頂けるように配慮している。また、体操や廊下歩行等身体を動かす機会を持って頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限りご本人様のご希望やタイミングに合わせて入浴して頂いている。入浴声掛けお誘いした際、拒否された場合は、時間をずらして再度声掛けしたり、日をずらして対応している。	毎日入浴できるよう準備をしており、利用者の希望や状態に合わせた入浴を支援しています。拒否傾向のある方は職員交代や声かけ、時間のタイミングに配慮をし、気持ち良く入浴して頂けるように支援しています。季節のゆず湯で楽しみの工夫に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様のご希望に合わせて、室温管理配慮している。定期的に布団干しをし、快適に休んで頂けるよう支援している。また、眠れない時は、リビングでお茶を飲みながら傾聴している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬変更時は、申し送り等で情報共有している。また、個人ファイルに薬の説明書がファイルしてあり、いつでも薬の確認をすることが出来る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌・ゲーム・塗り絵・囲碁等レクリエーションを行っている。また、外気浴・買い物・ドライブ等にも出かけ、気晴らしして頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴や散歩等お誘いしている。買い物や喫茶店を利用したりもしている。祇園祭の山鉦見学(ドライブ)や外食レク・個別レクにて外出支援も行っている。また、ご家族様とお墓参りや食事等にもでかけておられる。	日常的に散歩や買い物等に出かけています。駐車場でゆっくり外気浴をしたり、近隣の喫茶店に行くなど気分転換に努めています。車での日帰り旅行や外食の他、利用者の希望にそった個別外出の支援もしています。	

東山ケアセンターそよ風（桜）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の物購入時、利用者様のお小遣いから、ご自分で支払いをして頂く機会を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて電話をかけ、ご家族様の声を聞き安心して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下に皆様の写真掲示や季節の飾り付けを行っている。またリビングとキッチンが隣接しているので、料理の匂いや調理の音等の生活感も感じて頂いている。	格子戸や障子の使用で落ち着いた共用空間となっており、各ユニットごとに窓からの四季が移ろいが感じられるよう、テーブルやソファの配置に工夫をされています。直接、光や風があたらないように障子やファブリックを天井に吊す等の工夫をしています。利用者が閉塞感なく、自由にユニットを行き来できる空間や入り口にベンチで一人になれる居場所もあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間（トイレ・浴室除く）の中で、お独りで過ごせる空間はないが、気の合う方との会話を楽しんでおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時に、ご自宅で使い慣れた装飾品や家具をお持ちになられている。	家族と相談をして、入居前に自宅で使用していた馴染みの机や椅子、鏡台等の家具や大切にされている仏壇、写真等を持ち込んでいます。観葉植物を配置する等、利用者一人ひとり居心地の良い居室になるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部バリアフリーで、安全に自立した生活を送って頂けるようになっている。居室前には表札・トイレには目印を付け分かりやすくなっている。杖等を使用し、各自の身体機能を生かし生活して頂いている。		